

校内研究授業のまとめ

研究主題

自分を見つめ、他者と関わり合い、より深くより広く、考える児童の育成

～道徳科の授業づくりを通して～

講師 大阪教育大学名誉教授 藤永 芳純 先生

令和2年9月3日(木)13:30～16:40

研究授業

○5校時 道徳科授業(第2学年)

「ひつじかいのこども」A-(2)誠実, 正直

指導者 教諭

○6校時 道徳科授業(第5・6学年)

「美しい夢ーゆめびりかー」ふるさとのおじまん C-(1)伝統と文化の尊重, 国や郷土を愛する態度

指導者 教諭

指導講話のまとめ

○道徳科授業(第2学年)について

- ・主人公…ひつじかいのこども…道徳的変容の存否は不明
- ・道徳的変容…うそをついて面白がる→信用されず痛い思い, 読者はこの物語から何を学ぶか。大人たちがどういう思いをするか。こんなふうに人をだましていると, だれも信用しなくなる。明るい心で生活。
- ・山場「おおかみがきたぞ」とうそをついて, おもしろがる。(今日の授業ではない。)→ここで動作化するところ。
- ・発問①ひつじかい, なぜ「おおかみがきたぞ」とうそをついたのか→大人たちがさわいでおもしろいから。
- ・発問②ひつじかい, なぜ大人たちに助けてもらえなかったのか→助けられるような扱いをこどもがして生活していない。
- ・集中力の持続のために, 15～20分くらいで動作化が入るといい。
- ・信用と信頼…どういう文脈で使うか。

- ・うそとは、何か。うそにもいろいろある。わざとじゃないうそ。わざとのうそは、うそとして責められる。被害を被らせる。子どもたちのとらえ…優しさやうそと思っている。
- ・うそとは「本当でないこと」
- ・人間関係の円滑のために「うそ」は必要か。
- ・教科書を使って、確実に理解させる。どういうお話だったか整理するためにイラスト(場面絵)を使いながら。
- ・全員発言で、声のボリュームアップ。
- ・複数の対話の中から思考・議論。

○道徳科授業(第5・6学年)について

- ・主人公あき子…父が仲介役。
- ・道徳的論点 自分が生きていることを支える衣食住への開眼, 生活の実態に目覚める。
- ・助言者 父の話, あき子の良心→なんで?と調べてみようとする心が育っている。(ツール, 時間, 指導)
- ・人間が生きていくためには, 基本的な条件が必要→衣食住のバランス。何をして生きてきたか, 住む環境の違い。
- ・教材は今日が初見, 読むことにエネルギー→内容理解に差。先生が読むか, 録音CDを使うなどして, 内容を十分に理解させる。
- ・板書…工夫されていた。最後にタイトルにたどりつく良かった。「美しい夢って何なんだ?」ストーリーすべてが美しい夢, ふるさとじまん。タイトルが教材の主題を示す。
- ・子どものことばを書くのが板書の基本…子どもが使っていないことばは子どもの許可をとって翻訳して書く。子どもたちから出るセンテンスを翻訳して書くのが, どこまで書くか。言ってほしいキーワード。先生が何を言わせたいのかを子どもが感じられるようになる。
- ・「善と美」美しいとはみてくれるではなく, 夢とは儚いもの。
- ・社会・理科・総合などから, いろいろなアプローチ→道徳とのつながりを指導者が計画的に仕組む。
- ・地域の伝統と文化は一緒ではない。遠くのもの実感できない。近くの, 身近なもので学習を。

○全体について

- ・今日の2本はオーソドックスな形ではない。変容が不明。主人公の心情を追いかけていくだけでは授業が組めない。
- ・先生の役割は何か。授業の主体は子ども。自分の主張を授業の中で練り上げていく。議論させる。
- ・子どもたちが意見を言いやすいように, 多面的に。
- ・子どもはいろいろな発想をする。1つのキーワードがあってもいろんな言葉。

・収集役は先生。大きな流れは先生が持っておき，導きながら多様な議論を。

○次回の授業で

- ・他教科・日常生活とつなげる。(仕組む。)
- ・指導者が教材を読み，内容理解させる。
- ・練り合い場面(子どもたちが自分から進んで発表し，つなぎ発問へ)…指導者があまり話さない。
- ・何を学んだか，見て分かる板書づくり(子どもの言葉で)